

海岸防災林で猛威を振るう外来種 — ニセアカシア

ニセアカシアとは？



5～6月頃に白い花を咲かせます。東北自動車道の法面などでおなじみです。



植樹地に侵入したニセアカシア。2～3年で人の背丈より大きくなります。



放置すると、数年で立ち入れないほどの藪を形成してしまいます。

- 分類：マメ科 ハリエンジュ属
- 別名：ハリエンジュ（針槐）、ハゲシバリ、アカシア
- 原産地と分布：北アメリカ原産で世界各地に分布
- 生息環境：河川敷、土手、雑木林、荒地、海岸
- 形態的特徴：落葉広葉樹 樹高は2.5mに達する。
幼木の葉の付け根に鋭いトゲがある。
幹や枝の芯材部分は黒く変色する。

導入の歴史と広がり

明治初期に治山緑化を目的として導入され、小坂銅山や足尾銅山の森林再生のために植栽されました。山林の土砂流失を抑制するための能力が高いため、その後も崩落地等に植栽されたり、海岸防災林のクロマツ植栽の際に肥料木として混植されました。その他にも公園や街路樹として都市部でも植えられたり、蜜源植物として広く利用されてきました。

繁殖による影響

現在では日本生態学会により「日本の侵略的外来種ワースト100」に選ばれています。厳しい環境でも根粒菌によって土壌窒素の蓄積を行い、自分好みの環境に変えてしまいます。海岸林植樹地で植樹されるクロマツ等と比べると成長スピードが早く、また旺盛な繁殖力で植栽した苗木を被圧します。また、伐採後も繰り返し萌芽再生してくる等、驚異的な再生能力があります。その他、幼木の葉の付け根には長く鋭いトゲがあり、海岸防災林整備の障害となっています。



ニセアカシア 冬姿

幼木のトゲは軍手を簡単に貫通するほど鋭く、ケガの原因となるため、整備作業の障害となっています。



トゲの拡大図



ニセアカシア 放置状態

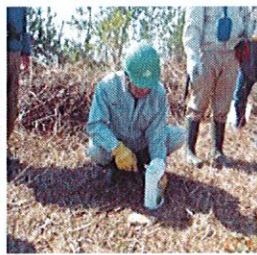
残存緑地を中心に勢力を拡大しています。しばしば単一群落を形成し、一度繁殖すると薬剤を使用しない限り根絶は困難になります。

駆除の取り組み

海岸防災林活動団体による除去作業が行われています。伐採すると萌芽しますが、繰り返すことで枯死させます。また除伐した切り口に除草剤を散布する方法を取る場合もあります。



ボランティアによる駆除作業



除草剤を使った駆除実演

活用



幹の断面。心材は堅く美しく、エンジュに似ている。



実際に切ってみると分かりますが、ニセアカシアの枝や幹の断面はとても美しく、いろいろなことに使えそうです。整備活動への協力とあわせて、活用も考えてみてください。

海の環境保全 - 海洋プラスチックゴミ

海洋プラスチックゴミ問題

近年海岸付近で問題となっているのが海洋プラスチックゴミの問題です。海岸や洋上で捨てられたゴミの他に工業資材などが上流から川を經由して流れてきたり、洋上で流出あるいは廃棄された養殖・漁業資材が海を漂って砂浜に多く打ち上げられています。

ゴミの種類もペットボトルや空き缶、ガラス瓶、漁業に使うフイや注射器など多岐にわたります。海岸線の景観を損ねたり、砂浜を散策する際に非常に危険な存在です。海の生き物との関係でいうと、漁業で使われていた漁網に絡まる、あるいはレジンペレットやビニール袋、「マイクロプラスチック」と呼ばれる小さなプラスチックのかけらは海の生き物がエサと勘違いして誤食したり、プラスチックゴミを誤食してしまった生き物を食べる他の大型の海洋生物や鳥、我々人間の健康への影響が懸念されています。

レジンペレットとは



↑ 海岸で採取されたレジンペレット

直径3mm程度の円形のプラスチックの粒です。このレジンペレットを工場で溶かして加工することで、我々が普段利用しているプラスチック製品はつくられています。紫外線などの影響で色が白いものから茶色いものまで様々あります。工場や輸送している船から漏れ出したものが、海に流れ世界中の海に拡散して問題になっています。

企業・団体による活動事例紹介

県内各地でボランティアによる海岸の清掃活動は行われています。またCSR活動や環境教育活動の一環として、海岸清掃に取り組む企業や学校も増えてきています。ゴミ拾いだけでなく、海岸防災林再生活動やビーチコーミング、植物観察会などのプログラムと合わせて行うこともできます。

興味関心のある企業や団体の方はお気軽に当協会にご相談ください。

○企業によるCSR活動の例



例：大日本印刷株式会社の場合

令和元年7月に仙台市荒浜地区において、海岸清掃活動を行いました。社員とその親子37名が参加し、清掃活動の他に被災地の住民との交流会や、海岸防災林の除草や植樹といった活動にも取り組みました。活動の合間に海浜植物の観察会も行われました。

○学校や団体による環境教育活動の例



例：仙台市立六郷小学校の場合

平成30年6月に仙台市荒浜地区において、海岸清掃活動を行いました。3年生の児童111名が参加し、清掃活動や海岸防災林の植樹を通して地元の環境問題について学びました。

清掃活動だけでなく、波打ち際で楽しそうに遊ぶ姿が印象的でした。



ゴミだけではなく、海岸に流れ着いた貝殻や木の実などを拾う「ビーチコーミング」は子どもだけではなく、大人の方々にも人気です。